



10/11(水) 第3回河南圏域で開催

盛岡市では、10/11(水)に盛岡市総合福祉センターにおいて、第3回目となる「地域福祉ワークショップ(河南圏域)」を開催しました。

このワークショップは、令和7年度を始期とする「第3期盛岡市地域福祉計画」の策定にあたり、今年度、市内各地区のみなさんから、「人と人がつながり、共に支え合うまちづくり」を大きなテーマに、各地区での現在の取組と、将来への希望などのご意見をうかがうために開催しており、日常生活圏域に基づき7つに分けて行います。

これまで、玉山圏域と厨川圏域で開催しました。第3回の河南圏域では、5グループに分かれて、参加者22名が意見交換を行いました。ワークショップ当日の様子と、いただいた意見の概要について、お伝えいたします。

【当日のタイムスケジュール】

18:30	<p>■開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 市地域福祉課より挨拶と趣旨説明。 本日の進め方(グループごとの話し合い)について説明。
18:45	<p>■グループごとの話し合い</p> <p>各グループには、参加者の話し合いのサポートをする進行役が1~2名入りました。進行役には、大学生3名も参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに自己紹介 地域の交流、顔の見える関係づくり、安心して暮らせる地域づくりのために、今、地域で取り組んでいること、これから取り組みたいことなどについて話し合いました。  <p>▲進行役と共に話し合い</p>
20:00	<p>■グループ発表</p> <p>各グループで話し合ったことを発表し、参加者全員で確認しました。</p>  <p>▲グループ発表の様子</p>
20:30	<p>■発表のまとめ・閉会</p>



▲グループワークの様子



▲たくさんのお意見が寄せられた模造紙

“笑顔であいさつ”から始まるお互いに気づける関係づくり

今回のワークショップで話し合われた内容の一部をお伝えします。

現状と課題

地区行事

- 自治会活動、敬老会、運動会・スポーツ行事、資源回収や清掃などの環境活動、景観づくりなど。
- ふれあい昼食会ははじめ、食(そば料理、もちつき、芋の子汁ほか)を通じた交流事業。
- ミニ文化祭の開催、小学校PTAと連携した映画会、資料館の運営など、文化的な活動。
- コロナ禍で飲み会が減って、顔が見えなくなった。コミュニケーションの機会が必要である。

高齢者の活動

- 老人クラブによる花壇づくり、旅行など。
- コミュニケーションを図るスポーツの取り組み。
- 老人福祉センターでの各種サークル活動。
- サロン会、生きがい講習会、誕生会の開催。
- 新たな会員の入会が少なく、活動が停滞(休止)しているところがある。
- ひとり暮らしの増加、見守りが必要となるところが増えている。

交流活動

- 子どもたちの夏まつり開催など。
- 子育てサロン、運動会。親子体操クラブ。
- 子育てサポート活動。
- マンションやアパート住民との住民間交流が課題である。

交通・防災など

- バスの便が減ったため、病院や買い物に不便になっている。
- 消防署員と合同で一人暮らし世帯、高齢者世帯を訪問。
- 子ども会と連携した防災標語づくり。
- 空き家が増えており、対策が必要となっている。

担い手・次の世代への引き継ぎ

- 役員のなり手不足、次の世代への引き継ぎが課題である。
- 次の世代が参加できる機会作りが必要である。
- 町内会のあり方見直し、担い手の確保が必要である。
- マンション住民に対する情報提供、活動への参加促進が課題である。

今後に向けて

日頃の活動

- 日常的に、あいさつや声かけを心がける。
- あいさつ、声かけ、近所づきあいで、お互いに気づける関係づくり。
- 町内行事に参加して、お互いに知り合う。

多様な交流機会づくり

- 互いを知る活動の実施(ほどよい距離感と助け合う関係づくり)。
- 子どもを見守る活動、若い世代と高齢者の交流。
- 30代~40代が活動に参加しやすい場づくり。
- 子ども・親世代を巻き込んだ交流。
- 夏まつりや雪まつり、そばづくりなどイベントによる交流。
- マンションやアパート住民との交流。
- 回覧板を利用した情報の共有(回覧板を交流手段に活用)。
- 散策などで地域を再発見する活動の実施。

人材不足への対応

- 身の丈に合った(高齢化・人口減少などに合わせた)活動の実施
- 町内会役員などへの女性の参画。
- 若い人が楽しめるようなイベントの開催、参加するきっかけづくり。
- 電子化など町内会の負担の軽減。
- 仕事を休んで地域活動に参加できる休暇制度の創設。
- マンション住民で協力してくれる人を見つける取り組み。

地域課題への取り組み

- 高齢者の足の確保、買い物や通院などの移動支援。
- 健康づくりや健康の維持(認知症、生活習慣病対策など)の取組。
- 支え合いマップづくりで、どんな高齢者がいるかを把握する。
- ひとり暮らし高齢者の見守り。
- ふれあい昼食会などサロン活動の実施。
- 空き家対策の取り組み。

#アンケートより「あなたの望む地域とは…」

- 助け合う部分、声をかけやすく、また、それが苦にならない程の暮らし方が良いと思っている。そのためには、それを担う者が必要なので、そう思ってくれる人が増えると良いと思う。
- 地域の高齢者、若者、子供が楽しいと感じる地域。
- 人の交流が見え、あいさつがしっかりできる地域。

アンケート結果より 参加した方々からの感想を紹介します。

- 他の町内の情報がわかり参考になった。
- 班員の方々から、ざっばらんに意見を出していただいたため、自分が気づかない視点などを示してもらい大変参考になりました。
- 自分の暮らしている町がより良くなる様にできる事をしていきたいと思いました。
- 今回の内容が、この先どのように“形”になるか期待しています。
- こうした場、機会を増やし、意見交換をすることは、地域福祉の増進につながっていくのではないかと感じました。

進行役からひとこと！印象に残ったこと

- 高齢者や町内会側は「子どもたちと交流したい」、学校や子ども会側は「地域の人と交流したい」と思っておりマッチングしているのに、①子どもたちの数が減っていることや、コロナ禍もあり、交流の機会が減っているという現状や、②子どもたちが各自の活動(習い事など)で忙しく交流事業に集まらないというような事情によって交流事業にまでは至っていないことが印象に残った。
- 「PTA→地域行事→老人クラブ」の参加者が同じ、時に、負担感になっているのでは？では、負担感を減らすには？←参加者が増えれば、負担感が減る(一同笑)(^o^)